

令和2年

第44回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会

と き 令和2年7月29日（水）

午後1時22分～2時48分

ところ 三宮研修センター 505号室

神戸市健康局地域医療課

開 会 午後 1 時 2 2 分

1. 開 会

●事務局

定刻前ではございますが、委員の皆様お揃いでございますので、ただいまより、第44回 地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会を開会いたします。

●事務局

それでは、本日の会議の成立についてご報告申し上げます。

本日の出席委員は8名でございますが、委員総数9名の過半数に達しておりますので、委員会は有効に成立をしております。

また、本日の配付資料につきましては、お手元の議事次第に記載のとおりでございます。資料の不足等ございましたら、お知らせください。

以降の議事進行につきましては、伊多波委員長にお願いいたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議 題

(1) 評価の基本方針及び実施要領について

●委員長

それでは、議事を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、事務局より本日の議題の概要について説明をお願いいたします。

●事務局

お手元の議事次第に記載がございますとおり、本日は、まず、議題(1)としまして、評価の基本方針及び実施要領について、事務局よりご説明を申し上げます。続きまして、議題(2)としまして、令和元年度の業務実績及び法人の自己評価について、そして、議題(3)としまして、令和元年度の業務実績評価(案)について、それぞれ市民病院機構及び事務局よりご説明しまして、委員の皆様からご意見をいただいてまいりたいと存じます。

資料の一番最後に当評価委員会の設置条例を参考資料として添付しておりますが、この第2条第2項の規定に基づき、評価委員会の意見を求めるものでございます。よろしくお願いいたします。

●委員長

それでは、(1)番目の評価の基本方針及び実施要領について、事務局より説明をお願いいたします。

●事務局

それでは、議題(1)評価の基本方針及び実施要領について、資料1をご覧ください。

今年度から、第3期中期計画期間の実績評価がスタートするにあたりまして、従来の評価基準の見直しを行ってございます。

年度実績評価につきましては、1ページ目の後段から説明がスタートしておりますが、1ページをおめくりいただきまして、法人による自己評価について記載をしております。

まず、小項目評価における5から1の評点の基準につきまして、従来の基準との比較表を5ページに新旧対照という形でお示しをしております。これまでは、年度計画を「上回って」「大幅に上回って」「順調に」あるいは「大幅に下回って」という表現を用いておりましたが、昨年の評価委員会におきまして、例えば、もともと高い水準を達成している項目では、「上回る」のは困難ではないか、あるいは「大幅に」という基準があいまいではないか、さらに、伸ばす取り組みだけでなく、高い状態を維持する取り組みもきちんと評価すべき、こういった意見をいただきまして、このご指摘を踏まえまして、他都市の地方独立行政法人における評価基準も参考にしながら、年度計画を達成しているかどうかというところに着目をした表現に改めております。

また、5及び1の評点をつけるにあたっては、「特筆すべき成果が得られている」あるいは「抜本的な改善を要する」、その内容を具体的に記載することとしまして、評価基準の明確化を図っております。

次に、大項目評価につきましては、資料の6ページ、5ページの裏面になりますけれども、第3期中期計画の項目立てを記載しております。ご覧いただいておりますとおり、法人全体としての取り組みに加えまして、各病院ごとの取り組みを重視した項目立てとなっております。これにあわせまして、従来の大項目は、第2、第3、第4という大きなくくりでの評価でございましたが、これに加えまして、中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター、神戸アイセンター病院という病院ごとの大項目を設けて、評価を行うことといたします。

また、小項目評価との関係では、5ページにお戻りいただきまして、下の欄に新旧対照表がございまして、これまでは、各小項目ごとに4段階のウエートづけ、例えば、救急医

療であれば4であったり、小児周産期であれば3であったりというウエートづけをしました上で、各評点5から1にそのウエートを掛け算した点数を合計して得点率を出して、それに基づいてSからDという評価をしておりました。今回からは大項目が増えるということもございまして、シンプルに5から1の評点の数によってSからDの評点をつけるように改めてございます。

3ページには、法人の自己評価を踏まえた市長による評価についてご説明をしております。法人自己評価と同様に、小項目評価及び大項目評価を行いまして、その結果を踏まえて、記述式による全体評価を行うこととしております。

年度実績評価の方針に関する説明は以上でございます。

なお、今年度、令和2年度以降の業務実績評価を行うにあたりましては、目下の新型コロナウイルス感染症の蔓延というものが、各病院の運営に多大な影響を及ぼしている中で、本市における安定的な医療提供体制確保のための感染症患者への対応を最優先としつつ、救急医療や高度医療を始めとした幅広い医療の提供との両立を図るという観点から、どのように評価を行うことが適切か、検討する必要があると考えております。

具体的には、withコロナ禍での市民病院としてのミッションを念頭に評価すべき項目の追加や変更、あるいは、その前提となります中期目標の変更の必要性についても検討してまいりたいと考えております。その内容につきましては、また改めて委員の皆様にお示しさせていただきたいと存じますが、このような状況に鑑み、あらかじめご了承をいただきたいと存じます。

説明は以上でございます。

●委員長

はい、ありがとうございました。

それでは、ご質問、ご意見、この方針と要領につきましてでございますでしょうか。よろしいでしょうか。

特にございませんので、次の議題に移らせていただきます。

(2) 令和元年度の業務実績及び法人の自己評価について

●委員長

議題(2)の令和元年度の業務実績及び法人の自己評価についてでございます。

それでは、神戸市民病院機構のほうから説明をお願いいたします。

●市民病院機構

それでは、令和元年度の神戸市民病院機構が取り組みました主な事業の概要をご説明いたします。資料2-1の令和元年度事業報告書・概要版をご覧ください。

1ページをお開きください。機構理事の一覧を掲げております。

2ページをお開きください。3ページにかけて4つの病院の機能など、基本的事項を掲げております。

4ページをお開きください。ここからは、機構が取り組みました主な事業を柱ごとに掲載しております。赤字での記載が令和元年度の特徴ですので、それを中心にご説明申し上げます。

1の救急医療等につきましては、全国救命救急センター評価において、6年連続で全国第1位の評価をいただきました。

真ん中にあります四角囲いの令和元年度の主な取り組みをご覧ください。西市民病院では脳神経外科の開設、西神戸医療センターでは救急課の新設など、各病院で救急体制を強化いたしました。

5ページにまいりまして、3.5疾病に対する専門医療の提供では、地域がん診療連携拠点病院等の役割が継続して果たせるよう、機器の更新を含め体制強化に努めました。

6ページをお開きください。中央市民病院でございます。

1(2)では、メディカルクラスターとの連携による先進的ながん治療等の提供を、

7ページ(3)では治験・臨床研究を医療産業都市の中核病院として積極的に推進いたしました。

(5)の市内唯一の第一種感染症指定医療機関については、後ほど新型コロナウイルス感染症への対応でご説明いたします。

次に、9ページをお開きください。西市民病院でございます。

右上のグラフ8にありますように、救急外来患者数等は大幅に増加をいたしております。

10ページをお開きください。(4)では、認知症患者に対する専門医療の提供、(5)では、生活習慣病患者への取り組みなど、高齢化が進む地域での事業運営を充実いたしました。

12ページをお開きください。西神戸医療センターでございます。

1(2)では、神戸西地域の小児救急の拠点としての役割を継続して担うとともに、13ページの写真にありますように、がん患者さんの生活等に関して、新たに社会保険労務士による相談会を開催いたしました。

15ページをお開きください。神戸アイセンター病院でございます。

グラフ17が示しますように、平成29年度の開設以降、手術件数、硝子体注射件数等、着実に実績を積んでまいりました。

(2)の次世代医療の開拓では、世界初の臨床研究の準備に取りかかりました。

次に、18ページをお開きください。1. 優れた専門職の確保と人材育成でございます。

(1)では事務職員の能力向上にかかる取り組みを、(2)では職員が意欲的に働くことのできる人事給与制度の構築として、2段落目にありますように働き方改革の推進に努めました。その趣旨でございますが、ここに記載はしておりませんが、医療従事者の健康確保により医療の質や安全が確保された医療提供体制を維持することを目指したものでございます。具体的には、赤字の部分でございますが、時間外勤務状況のヒアリング、所属長を対象とした研修等により、労働時間の適正化に努めました。

19ページに移りまして、2(2)の情報連携体制の強化では、2026年度を目標年度として、4病院の医療情報システムの最適化推進の方針を決定いたしました。

20ページをお開きください。経営状況ですが、各グラフが示しますように、病院の収益・費用の規模は年々増加しており、5年間で約20%拡大をしております。

詳細についてご説明いたしますので、22ページをお開きください。棒グラフの中で、青色が経常損益、黄色が資金収支でございます。法人全体では、令和元年度の青色の棒グラフですが、3.1億円の赤字で、これは平成28年度以来3年ぶりでございます。

23ページをご覧ください。病院ごとの状況でございます。一番上の中央市民病院では2.3億円の赤字。その要因は、左の説明文の2段落目ですが、材料費や減価償却費など費用の増加が一因となっております。

西市民病院も同じく2.3億円の赤字でございますが、前年度の4.8億円の赤字から大きく収支好転をいたしました。これは診療機能体制の効率化などによる収益確保と費用抑制によるものでございます。

西神戸医療センターは0.3億円の黒字でございますが、こちらは、前年度の6.1億円の黒字から大きく悪化をいたしております。これは救急体制の強化や外来化学療法件数の増加等による収益確保に努めたものの、時間外勤務手当や経費などの費用が増加したことによるものでございます。

最後に神戸アイセンター病院でございますが、昨年度に引き続き1.2億円の黒字でございます。手術や硝子体注射の件数が着実に増加した結果でございます。

次に、25ページをお開きください。平成30事業年度の事務事業評価の際にいただきました課題に対して、令和元年度に取り組んだ状況を記載したものでございます。

第1の市民に対して提供するサービス等の向上におきましては、機構全体の医療情報システムの共通化による効率性の発揮に努めるべきというご指摘でございます。

令和元年度の取り組みとして、先ほども申し上げましたが、各種調査・ヒアリングを行うとともに、2026年度を目標年度にシステム最適化を進める方針を決定いたしました。

第2の業務運営の改善・効率化におきまして、働きやすい環境づくりとして、医師の時間外労働の上限規制を見据えた取り組みを進めるべきというご指摘でございます。

令和元年度の取り組みとして、2段落目でございますが、医師の時間外勤務時間は、前年度比較で一定の縮減をいたしました。今後取り組みをさらに進めていく所存でございます。

26ページをお開きください。第3の財務内容の改善におきまして、安定的な経営基盤を維持するために、さらなる経営改善策を講じるべきというご指摘でございます。27ページから29ページにかけて、各病院の医療機能や地域特性に応じた取り組みを掲げております。

次に、29ページの中段ですが、第3財務内容の改善【神戸市からの課題4】○質の高い経営として、さまざまなデータなど多様な情報を共有し、分析することで、業務の標準化や経営改善につなげるべきというご指摘でございます。

令和元年度の取り組みとして、多様な情報を戦略的に分析する基盤構築に着手するとともに、データの共有化あるいは具体的な業務の改善について検討を行いました。

最後に、第4その他の事項におきまして、PFI事業の検証と改善を進めるべきというご指摘でございます。

令和元年度の取り組みとして、効率的・効果的な業務運営を目指し、市場調査を開始したところでございます。

30ページをお開きください。新型コロナウイルス感染症への対応でございます。

1の概要でございますが、3月3日に神戸市内で初めて感染者が確認され、以降、各病院とも最前線で治療に取り組みました。

2の感染拡大と医療機能の縮小ですが、緊急事態宣言に伴い、重症患者に対する特定病院の指定を受けた中央市民病院におきまして、4月9日に院内での感染が発生し、4月13日より医療機能を縮小いたしました。

3の感染拡大防止対策では、ゾーニングの徹底、来院者に対するスクリーニングブース

の設置等を行い、対策を講じました。

右のページに移りまして、4の医療機能の回復でございますが、中央市民病院では、5月11日、6月3日と段階的に医療機能を拡大いたしました。

5の温かい支援にありますように、多くの方々からのご支援が、医療従事者への大きな励みとなりました。

6の第2波への備として、右の写真にありますように、中央市民病院の敷地内に臨時病棟を建設し、今後の備えを行う予定でございます。

以上で事業報告のご説明を終わります。

次に、取り組んだ事業に対する自己評価でございます。資料2-2をご覧ください。

先ほどご説明いたしました柱立てごとに事業を区分し、各項目内で括弧書きで小項目を掲載しております。

表の右側上部をご覧ください。小項目評価の内容を明記しており、3の評価が「年度計画を概ね達成している」というもので、自己評価ではすべて3以上としております。その中で、「特筆すべき成果が得られているもの」を5の評価としております。一つ目は、表の左側、大項目の第1市民サービスの向上でございますが、1(1)の救急医療・災害医療、もう一つは、中ほどの中央市民病院の(1)日本屈指の救命救急センターとしての役割の発揮について、取り組みの強化と実績等を勘案して、いずれも5の評価といたしております。

次に、「達成度が優れているもの」を4の評価としていますが、表の左側、大項目ごとに主なものを説明いたします。

まず、第1の市民サービスの向上では、1(3)5疾病に対する専門医療の提供、(4)地域包括ケアシステム推進への貢献等。

中ほどの中央市民病院では、(3)神戸医療産業都市の中核機関として治療・臨床研究の更なる推進、(5)第一種感染症指定医療機関としての役割発揮

その下にあります西市民病院では、(4)認知症患者に対する専門医療の提供、(5)生活習慣病患者の重症化予防に向けた取り組みに対して、4の評価といたしております。

西神戸医療センターでは、(4)幅広いがん患者への支援と集学的治療の提供。

神戸アイセンター病院では、大きく黒字を伸ばしたことから、ほぼ4の評価をいたしました。

以上で、令和元年度の事業報告並びに自己評価についてのご説明を終わります。

何とぞよろしくご審議のほどお願い申し上げます。

●委員長

はい、ありがとうございました。

それでは、ご意見、ご質問を委員から受けたいと思いますけれども、その前に、欠席委員の意見につきまして、事務局と、それから病院機構のほうから説明及び回答をお願いいたします。

●事務局

資料3をご覧ください。本日ご欠席の委員から事前にご意見を伺っております。

まず、令和元年度の業務実績につきましては、1つ目、市民サービス向上の観点につきまして、患者満足度調査の実施に終わることなく、定期的な見直しや課題を見つけて、その解決のために行う具体的な取り組みがさらに見えてくると良い。

それから、市民への情報発信としまして、業務報告書（概要版）を神戸市民の方にもぜひ読んでもらいたい内容である、情報発信をしていただきたいというご意見。

それから、職員の能力向上の取り組みとしまして、事務職員の中でも特に管理職にとって必要となるのが、マネジメント能力でありまして、これはなかなか研修で伸ばすことが難しいため、マネジメント能力の素養のある職員をいかに採用するかに力を入れていくことも大切である。

そして、その他としまして、業務実績評価の課題の対応が事業報告書に盛り込まれており、前回の指摘をすぐ実践に生かしていることに感謝申し上げます。

法人自己評価につきましては、採点、評価ともに異論はない。特に、5の評価がついている、「救急・災害医療」、中央市民病院の「日本屈指の救命救急センターとしての役割の発揮」については、最高レベルで現状維持するだけでも大変な努力を要する、実績に敬意を表したいというご意見をいただいております。

●市民病院機構

それでは、私のほうから委員のご意見に対する回答を申し上げます。

1点目、患者サービスの向上の関係で、「患者満足度調査の実施で終わることなく、定期的な見直しや課題を見つけてその解決のための具体的取り組みが重要」というご指摘でございます。

患者サービスの向上の取り組みにつきましては、各病院の患者サービス委員会におきまして、意見箱に寄せられましたご意見の検討や、院内をラウンドしたその結果、改善行動を毎月実施するとともに、患者満足度調査や定期的なアンケート調査、退院時アンケート

を実施するなど、多様な手法で患者ニーズを把握し、対応をしております。ですから、患者満足度調査につきましては、その一つの手段というとらえ方をしております。

いずれの取り組みにおきましても、患者やその家族の視点に立ちまして、ニーズを的確に把握し、病院長や看護部長のマネジメントのもとで速やかに対応するとともに、問題点や課題を速やかに解決をしております。また、その結果につきましては、病院幹部で共有するとともに、診療科部長や各部門の長が集まる毎月の定例会で報告をしております。

いずれにしましても、病院職員一人一人が日々の仕事の中で患者やその家族の目線に立って、いかに気づくか、これが重要でございます。病気やけがで苦痛あるいは不安な気持ちを少しでも和らげることができるよう、病院の療養環境やサービス、応対を改善し、向上させるというマインドを持つよう周知して取り組んでまいりたいと考えてございます。

2点目、業務報告書の市民への発信、情報コーナーに設置してはどうかというご指摘でございます。

患者さんは、病院で診療を受ける際、ご自身の病気に関する情報をホームページにアクセスして収集される。あるいは、一方で、病院のほうは、このニーズに対応することに重点を置いて、これまで作成してきてございます。

一方で、事業報告書（概要版）につきましては、病院全体の事業の実績報告を目的に意識して作成しておりまして、1年間の取り組みを日常的に使わない言葉に対する注釈を加えて説明する視点を変えたものとなっております。こういった情報を積極的に打ち出していくことで、病院に対する全体の理解を促進し、新たなイメージを多くの方々に抱いていただき、病院に対する不安払拭につながっていきましたら、市民にとって病院の存在が身近なものとなるというふうな期待ができるのではないかと思います。

ご指摘のとおり、市民の方々がより目にする場所への設置、あるいは手に取りやすい冊子にするよう工夫をして、このご意見のとおり進めてまいりたいというふうに考えてございます。

3点目でございますが、マネジメント能力の素養のある職員をいかに採用するか、このご指摘でございます。

ご指摘のとおり、マネジメント能力の素養のある職員の確保は、機構にとって非常に重要でございます。昨年度、4病院のワーキンググループを、これは中堅職員が集まったものでございますが、事務職員の求める人物像、あるいは行動指針、育成方針などを協議いたしまして、これらを踏まえた上でキャリアパスを定めて、各役職のあるべき職員像を

明確にしたところでございます。

病院経営を行う上で、マネジメント能力を有した管理職は重要でございまして、これまでも病院での勤務経験のある管理職の採用を行ったこともございますが、今後は、キャリアパスが定まったことで、役職のレベルに応じたマネジメント能力や、あるべき職員像を見据えた採用を行っていくことができると考えてございます。

なお、昨年度のワーキンググループでは、キャリアパスのほかに、採用選考あるいは職員研修についても検討をしております。採用選考に関しましては、優秀な人材が当機構の採用試験を受けてもらえるように、募集パンフレットを刷新するとか、情報発進の強化に取り組んでございます。

また、合同転職説明会に積極的に参加するなど、即戦力の経験者採用にも力を入れてございます。

職員研修につきましては、これまでの研修に加えて、職員個人のマネジメント能力の底上げのために、病院マネジメント基礎講座、病院マネジメント応用講座などの研修を機構内で独自に開催して、入職後の早い段階から職員に参加させる計画としてございます。

ご指摘に対する回答は以上でございます。

●委員長

はい、ありがとうございます。

それでは、各委員からご自由にご発言いただきたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

●委員

ご説明いただいた資料2-1 事業報告書（概要版）というところで、30ページ以降にコロナの話が書いてあるんですね。これは4月以降の話が入っているわけで、厳密にいうと、過年度「令和2年3月31日まで」と書きながら、4月以降の話が書いてあって、僕はこれはこれでいいと思うんです。概要版にこうやって4月以降のコロナの話を書くことはいいと思うんですが、これを評価するときはどうするのか。これは後で市の評価と齟齬があるところで議論しようと思ったんですが、もうここで整理しておいたほうがいいなあと思って申し上げますが、評価のときの年度というのは3月までの話だというふうに整理するのかどうかというのをちょっとお聞かせ願えますか。4月以降の話をここで、これはだから参考とか何とかというふうに位置づけて、明確に評価から外すということをはっきりさせればいいんですが、今のままだと、多分それも踏まえて書いてあって、それで評価

のところになって「いや、評価は3月までなので」という話になっているような気がするんですが、その辺の整理を一度しておいていただけますか。

●委員長

事務局、お願いいたします。

●事務局

先生おっしゃるように、あくまで評価につきましては、元年度の評価ですので3月31日までと考えております。ただ、概要版の作成におきましては、新型コロナウイルスにつきましては、3月で切れたわけではないので、引き続きの対応を載せているので、その点がちょっとややこしくなっているということは申し訳ございません。あくまで評価につきましては、元年度ですので、3月31日までと考えてございます。

●委員

もしそうであれば、さっきちょっと言いましたけども、このコロナのところは参考とか何とか、本来の事業報告、それで評価される対象じゃないという話をはっきりしておいたほうがいいのではないかと思います。

●市民病院機構

はい。我々は、この説明資料を作成いたしましたときに、そもそも令和元年度の決算の外部監査人からの指摘では、決算書に4月以降の新型コロナウイルスに伴う診療への影響、経営への影響、インパクトが大きゅうございますので、それをしっかり把握して説明していく必要があるという決算書に注記をされたというご指摘もございます。

それを踏まえて、これは機構への大きなインパクトがある、経営上のダメージもございますし、そのあたりはしっかり説明をしていく必要があるという、説明責任を果たすという意味で注記をさせていただいたということですので、ご理解いただきたいと思います。

●事務局

あくまでですが、4月以降につきましては参考になりますので、先ほど委員がおっしゃられましたように、「新型コロナウイルス感染症への対応」の後に「(参考)」ということで書かさせていただけたらと思います。

●委員長

あくまでも評価は令和元年度ということになりますので、かといって、これを全く載せないというわけにもいかないというふうに思いますので、その評価が元年度であるということを明示的にわかるような形で、この4月以降に関しては参考資料であるということも

わかるような形で明記していただきたいと思います。ありがとうございます。

ほかにございますか。

置塩委員、どうぞ。

●委員

今回の評価につきましては、今もありましたように、コロナの影響というのをどう評価するかということですが、令和元年度におきましても、1月、2月、3月というのは、中央市民病院を始めとして何らかのコロナの影響を受けてますし、3月には神戸市内でも患者さんが発生しておりますので、その3月の1カ月だけでも、中央市民病院は、かなりコロナに対しての対応はすごかったと思います。

そういうこともあります。コロナを抜きにしても、令和元年度におきましては、それぞれの病院、特に救急に関しては3病院ともそれぞれ対応がすばらしかったと思いますので、救急に対する評価は高くても当然だと思います。

あと、全般的な評価といたしましては、特に先ほど説明していただいたとおりで、特に問題ないかと思いますが、ただ、先ほど言いましたけども、今年度も一部年度末にはコロナの対応も評価の一部に入ってくると思いますので、特に中央市民病院なんかは、感染症指定病院としての役割を十二分に発揮されておまして、市内の医療機関は非常にいろんな恩恵をこうむっておりますので、その辺はプラスアルファでの評価も必要じゃないかと思います。

以上です。

●委員長

はい、ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

●委員

ただいまのコロナに関しましては、報道で、中央市民病院が院内感染を起こしたことに、すごいショックを受けた一人です。それを見事に乗り切ったということは、私の関係者一同は、すごく中央市民病院さんに対しては、「さすがだ」というイメージがある。そのイメージの中で評価が影響するなあというようなことを、今、委員の話聞いて、すごく思った次第ですが、厳選に評価をされたと実は思っていますのですが、それはそれとして、「すごい」「さすがだなあ」と思った次第ですが。

4ページにBCPの訓練とか研修をされたとあるんですが、実はこのBCPは、今回の

ようなときにいかに生かされたかというのが非常に影響したかとも思いますが、元年度にこのBCPを、研修にとどまらずに、実質的に運用した例があるかというのは、私自身は、神戸市内の災害状況とか余り細かくわかりませんが、このBCPを運用したというような実例があれば教えていただきたいなあというふうに思います。

●委員長

これは、どなたが詳しいでしょうか、機構のほうでしょうか。

●市民病院機構

BCPにつきましては、中央市民病院と西市民病院において作成、出来上がっております。西神戸医療センターにおきましては、ほぼ完成形に近いところで今回の新型コロナウイルスの発生があったということで、実際には訓練が各病院でできたかどうか、コロナ発生前にあったかどうかちょっと存じておりませんが、従来のBCPを新型コロナウイルスバージョンに修正して対応しているというふうに認識はしております。

●委員

BCPは、非常に数年前から私たち医療従事者にとっては使命的に国から求められたものでございましたので、3月の発生するときには既にこのBCPが動いたという、動かなくてはいけなかったらというふうには思っていた次第です。

ですので、どのようにそのBCPの中の運用とその反省というか、追加事項が多分あると思うので、ぜひこのBCPが訓練止まりにならないで、引き続きこの感染症に対しても運用できるようになればいいなあと思ってお聞きしました。

ありがとうございます。

●市民病院機構

中央市民病院でございます。委員からのご指摘、ありがとうございます。

中央市民病院の感染症を対象にしたBCPは、3月16日に改訂をされまして、そこでコロナに対する対策も盛り込んだ形にしております。実は、それが早速役に立ちました。前年度においてはそのBCPの発動はもろんなかったわけでございますけれども、4月9日に発覚いたしました院内感染に伴って、たくさんの職員の健康観察、自宅待機ということになりました。延べで申しますと、300人を超える職員の自宅待機が発生しまして、それに伴って、病棟閉鎖であるとか、あるいは職員の配置転換であるとか、さまざまな形で影響が及びました。そのときに我々が準拠してとった行動が、この3月16日に策定されましたBCPであったというようなことがございます。

委員が今ご指摘の、それを実際に施行してみて、どういうふうな改正点が必要であったかということに関しては、我々は、いろいろ頭には今、描いております。とりわけBCPが想定していた職員の自宅での健康観察等々のこと、基本的な路線はそのBCPに沿って行いましたが、そのマグニチュードというんですか、大きさ、規模、影響力というようなことは、我々の想定を若干超えるものがあったように思います。したがって、もっと大きな規模でのそういう院内における感染の影響が及んだ場合に、どのように我々が実際に診療の継続をやっていくかということに関しては、今回の経験が大変参考になったかというふうに思っております。そういう点も含めて、これからさらにBCPを強固にしていく改訂を行っていきたいと思っております。ありがとうございました。

●委員長

ちょっと質問なんですけども、そのBCPの検証をする機関というのは、具体的にどこになるのでしょうか。

●市民病院機構

把握してないですねえ。BCPを検証するのはどこですか。

●市民病院機構

各病院のコロナウイルス対策本部なりで、第1波の後、個々に検証はされてたというふうには認識しております。

●委員長

何かそういう検証する機関も少し明確にされておいたほうが良いような印象を受けましたので。

●市民病院機構

ありがとうございます。まだオンゴーイングな事象というふうに我々は認識をしておいて、過去のものではなくて、まとめようかということにはなっていないかというふうに思います。第1波における院内感染は、もちろん一応収束しておりますので、それに関しての総括、それから取りまとめ、どういうプロセスでそういう院内感染が発生したのかみたいなことに関しては、冊子にまとめまして、市当局のレビューを今、受けている段階でございます。

それは、恐らく委員長がおっしゃった、BCPそのものの評価、改訂、どうだったかということの評価するプロセスとは若干違うと思いますので、そのあたりはまた明確にして対応させていただきたいと思っております。

●委員長

ありがとうございます。

●委員

後でと思ったんですが、コロナの話題が出ていますので、中央市民病院は第一種感染症指定医療機関になっていると思うんですが、そのときに、全国でも55病院ぐらいで100床ぐらいしか確保されていないと思うんですが、中央市民病院の第一種の病床というのは、何床確保されていますか。

●市民病院機構

第一種が2床で、それから第二種が8床で、合計で10床でございます。

●委員

それで、言いたいのは、その病床数を超えた働きをされていると思いますけど、これは後でもかかわってくると思うんですけど、自己評価のところは4になっていましたが、私は5でもよかったと思うんです。これは後でまた絡んでくると思いますけど、そういう意味で、定められた病床以上の働きをされたのではないかなあというふうに感じました。

以上です。

●委員長

はい、ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

●委員

個々の評価もさることながら、全体の評価は、これで大変いいんじゃないかというふうに思っております。

ただ、記述の中で、私自身が前から気にしておりますのは、例えば、神戸中央市民病院が、日本でもトップクラスの入院単価や外来単価を得ている。一方で損益上は損失が出ているという、この問題ですね。そこの基準の中には、材料費の高騰であるとか、病院情報システムの減価償却費等々が書いてありますが、もっと根源的な問題を見逃しているのではないかというふうに思います。

例えば、手術件数の推移を見てみますと、従来1万3,000程度だったものが、ここ2年間、手術件数はぐっと減ってきています。その手術が減るということの原因は何なのか、これが損失の一つのファクターになっていないかというのを懸念しているわけでありまして、そこは、やはりきちっと記載をしておいたほうがいいんじゃないか。もちろん材料費

は高いです。それは仕方がない。そして、ただ、病院情報システムの償却費、これは他の病院から比べて特に多いわけでもなんでもないわけでありまして、そのせいではない。もっと大きな問題を記載すべき。もし記載できなければ、そこに対する分析能力の欠如というふうに思います。

そういうことからいうと、データのベースを、例えば、これから4病院共通化するのが2026年度と、これから6年先になるわけですが、今からでもできるものがあるはずですよ。だから、そういうものをもっと早く前倒しをして、病院共通の問題、それから個々の病院の個別の問題に切り分けてきちっとそのデータ分析をできる、それこそコンピテンシーを持った職員をやはり増やすべき、そういうところへの投資が少しまだ少ないのではないかと懸念しています。やはりそういう問題を直視しないと、表面的なことはそのとおりでありますが、根源的な分析、例えば、医療の質と、それからそれに対するコストの問題、それから患者さんの満足度の問題、職員の満足度の問題等々そのバランス化されたスコアカード的な発想の中で物事をやっていかないと、本当の評価にはならないのではないかと懸念しております。コロナの対応についての表現について問題を言っているわけではなくて、やはりその問題が、次年度以降大きな問題になるのではないかと懸念しています。

以上です。

●委員長

少し方法論的な観点からのご発言だったというふうに思いますけれども、今後、こういう分析を踏まえて少しずつ充実していくものだというふうに思いま。市民病院機構、何かございましたら。

●市民病院機構

1点だけ、最初におっしゃいました手術件数のところ、我々、記載が不十分なところをお詫び申し上げます。29年度から30年度にかけて大きく落ちておりますのは、これはアイセンター病院に中央市民病院の眼科が移りまして、その相当の件数が落ちた分でございます。そのあたり、ちょっと注記しておくべきかと思えます。以後、改善させていただきま。ありがとうございます。

●委員長

では、その辺、少し表現を変えていただきたいというふうに思います。

ほかにございませんでしょうか。

●委員

少し経営の話も出ましたので、私の役割は財務的な話なのでコメントさせていただきます。

全体の資料は、とても見やすく、非常に時間もかけてお作りになっているなあというふうに思いました。とても見やすい資料だと思います。

評価の体系も、4病院が入ったことで、病院全体、評価をやりやすくなったので、合理的なものになったかなあというふうに思います。

私は特に財務周りの話をするんですけども、救急のところがやはり評価が5になっていて、もちろんこの評価でいいというふうに思います。特に応需率について、私はかつて何回か質問させていただいたことがあったのですけれども、この不応需率のケースの事後的な分析もされているということなので、単なる応需率の率のことだけではなくて、救急対応の質の面でも向上に努められているのかなあというふうに思い、この点は高く評価したいと思います。

では、財務的なお話です。全体の自己評価の結果については、特に異論はございません。これでいい、と思います。

4病院について、それぞれもう少し具体的に説明をさせていただきたいと思います。

中央市民病院については、2.3億円の経常的な赤字が出ているのですけれども、先ほど武田先生がご指摘されたとおり、非常に高い単価であるにもかかわらず赤字が出ている。病床利用率が計画を少し下回っているということで、単価は上がっているのですけれども、ベースの費用構造として固定費が上がっていて、損益分岐点ぎりぎりのところでの経営を余儀なくされているということで、少し病床利用率が下がると、赤字、損益が悪くなってしまうという構造的な問題を抱えているのかなあというふうに思います。

ただ、その程度ですけれども、材料費の比率をこの前いただいたのですけれども、それで試算すると入院単価が高くなっていますので、病床利用率が1%、1ポイント変わると1.9億円、約2億円利益が変わってしまう、こういう構造になっているということです。2.3億円の赤字ですけれども、病床利用率に直せば1.2ポイントぐらいということになります。1.2ポイントということは、ちょうど計画値の病床利用率が92.6%で計画されていて、実績が91%ですから、これを考えると、計画どおりの病床利用率を達成していれば、経常損益も黒字だったと言えなくもないとっていて、これが計画された病床利用率を達成しても赤字が出てしまうということになると、ちょっと注意信号かなあというふうに思

うんですけれども、何とか計画を達成すれば経常損益ベースで黒字になる可能性が高かったということで考えると、病床利用率が1.2ポイントって、現場というか、各診療科では多分認識できていないぐらいの差だと思うんですけれども、そういう意味では、これは「概ね達成している」と評価してもいいと思いました。

なお、先ほど出たコロナの問題については、確かに財務諸表の注記のところにも、4月以降、大幅に患者数が減っているというのは書かれていて、うちの大学病院も3月ごろから影響は出ていますけれども、そこをどう評価しようかと思ったんですけど、なかなか難しいので、少しコロナの問題は横に置いて、今回は数字を見させていただいております。少し気になるのは、在院日数が少し伸びる中で病床率は下がっているということ、この点を、恐らく診療科ごとの事情もあると思いますけれども、もう少し分析をされて、問題があれば、課題に対する対処をしていただきたいというふうに思いました。これが中央市民病院です。

西市民病院については、在院日数が下がる中で病床利用率が上がっていて、それも比較的右肩でここ数年上がっています。計画に対する達成度でいけば未達になりますけれども、赤字幅もかなり小さくなっているということで、西市民病院についても、病床利用率が目標を達成していれば、恐らく赤字の幅も1億円を切っていた可能性が高いかと思しますので、これは自己評価どおり、高く評価してもいいかなあというふうに思いました。

それから、西神戸医療センターについては、昨年度は、西神戸医療センターが全体の利益にかなり貢献してくれたのですが、今年は固定費が少し上がったということで、全体の利益には残念ながら貢献はできなかったということで、収支トントンになっているということだと思います。90%の病床利用率で収支トントンということがわかりましたので、例えば、計画どおり2%、2ポイント、稼働率が上がっていれば、固定費の吸収できる幅というのは1億円ちょっとぐらい出てきますので、そう考えると、単価が増えるような取り組みをしていく上では、投資をして単価を伸ばしていくというのも一つの方法かなあというふうに思いました。もともと西神戸医療センターは投資を控える中で比較的利益が出やすい体質になっていたと思いますので、これからは少し固定費が上がっていくということを前提に単価を伸ばすような方策をとっていかないと、やや収益性が悪くなる可能性があるかと思いました。

アイセンター病院については、今年、全体の利益に一番貢献したのはアイセンター病院でございまして、病床・平均在院日数が低い中で非常に高い単価を達成されていますし、

新入院患者の数も目標を大幅にクリアしているということでありまして、全体に対する貢献度が非常に高かったと思います。

自己評価の中では4の評価をされているんですけども、これは私は個人的には5でもいいのじゃないか。開院して2～3年でここまでですね、去年も私、申し上げましたけれども、当初赤字の予定だったのが、非常に収益性の高い立ち上げ、ものすごく迅速に新しい病院を立ち上げられて、しかも損益面でも貢献されたということで高く評価できるということを申し上げましたけれども、この財務的状况を考えると、個人的には5の評価でもいいのかなあというふうに思いました。

まとめますと、もともと中央市民病院を中心に、収益性が高くてほかの病院を支えるという、そういうふうな病院の構成だったのが、今の中期計画期間では、それぞれの病院が自立的に経営をしていく姿が理想的だというふうに思っています。そういう意味では、もうある程度各病院が少し自立に向けてその経営の構造がうまくできつつあるということを見ると、自立的な経営の軌道にちゃんと乗っているということを見ると、全体としての評価は合理的なものだというふうに思っています。恐らく、今回は例えばアイセンター病院が貢献をして、去年は西神戸医療センターが貢献するというふうに、毎年数億円ぐらいの範囲内で相互に補完しながら、全体としては赤字を回避していくという、つまり理想的かなあというふうに思いましたが、今年はコロナの問題があつて、特別な事情がありますけれども、その影響をのければ、基本的な経営としてはそういう姿が理想的なのではないかと思いました。

というわけで、提案としては、神戸アイセンター病院(5)経営改善乗り組みと経営収支目標の達成を「5」にしてもいいのではないかとというのが委員として提案でございます。大学の授業だと、遠隔だと甘くなるんですけど、かといってこの評価委員会で遠隔だから甘くしているというわけではありませんので、念のために申し上げます。

以上です。

●委員長

ありがとうございます。特に評価に関しては、全体的にはこれでよろしいけれども、神戸アイセンター病院の(5)ですね、「経営改善の取組みと経営収支目標の達成」、これを「5」にしてもよいのではないかとご提案でございますけれども、これについて、何かほかの委員の方、ご意見とかございますでしょうか。

●委員

実業的な見方でいきますと、このお話は、確かに3月末が決算ですからコロナのことは余り出ないと思うんですけども、コロナは期末から影響を受けていますし、現実に対応が大変だったと思います。それが今度はこの新年度はもっとひどい影響が出てくると感じますので、流れからいきますと、この3月末で切ってしまうということは、なかなか難しいかもわかりませんが、ある意味では、今は、おっしゃったように、ハロー効果が出ちゃって、現状、今、見たのが一番大きな影響を受けてしまうという心象がありますけども、全般的に見ますと、この大変な中で奮闘されて、この業績を上げられたということに対して、私は、個人的にはすべてワンランク、プラス加点1点ぐらい全部上げてもいいんじゃないかというぐらいな印象を持っています。

それから、先ほど話がありましたけど、企業会計上あるいは監査上でいきますと、決算が終わった後に発生されるリスクが心配なのは、後発事象ということで一応明記しておくということが必要なことだと思いますし、これはこれで私は別に問題ないと思います。

したがって、これからどうするかということが、どうしても、実業家から見ると、今終わったことはもういい、これからどうするかが心配になりますので、それをちょっと申し上げますと、これはこれからのコロナの影響もありますけども、この経営の維持をどうするかという問題が大きなポイントになります。それを健全化させるということもありますけども、この起きてくるこれからの新年度の赤字は相当大きなものになるのではないかと心配しております。だけど、ここは、この状況を考えますと、これはやむを得ないということからいきますと、いわゆるここでわかったリモートとか、いわゆる遠隔関係、それからデジタル化ということが確かに大きな急務になってくると思いますので、ここは思い切って経営としては、大胆にいわゆる健全な赤字だという認識で、怖がることなく、必要なことは、どっちかといったら早く前倒ししてもいいから投資をしていくということをもって取り組んでいただけたらなあということ逆を期待するほうでございまして、全般的にこの年度の評価については特に異論はないし、さっき申し上げたように、できればワンポイント上げもいいというぐらいの印象を持っております。

●委員長

ありがとうございます。全般的にはこれでよいということ、ただ、コロナが発生した状態の中でもよくやっているの、全体的に財務の点に関してはポイントを上げてもいいという新たな提案ですけれども、具体的には委員のほうから、アイセンター病院に関しては、

経営改善に関してはワンポイント上げもいいのじゃないかと具体的に出ておりますし、それから、今、委員のほうから、それもいいのではないかという意見をいただいておりますので、このアイセンター病院に関しては、財務に関してはワンポイント上げるということですが、いかがでしょうか。

●委員

これ今、自己評価のところの説明ですね。その後に市の評価が案として出てきて、そこが評価をどうするかというところじゃないかと思うんですが。だから、自己評価は、今の議論を踏まえて、「いや、私は、実は4じゃなくて5でした」とおっしゃるなら別ですが、恐らくそうじゃないと思います。

●委員長

わかりました。それでは、次の(3)のところでもた改めて議論したいというふうに思います。

ほかにございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(3) 令和元年度の業務実績評価（案）について

●委員長

そうしましたら、ちょうど今、提案がありましたように、議題(3)のほうに入りたいというふうに思います。令和元年度の業務実績評価（案）についてということでございます。

事務局のほうから説明をお願いいたしたいと思います。

●事務局

お手元の資料4をご覧ください。令和元年事業年度の業務実績に関する評価（案）についてご説明を申し上げます。

まず、全体評価としましては、小項目評価及び大項目評価の結果を踏まえまして、「全体として年度計画を十分に達成し、中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」とさせていただきます。

その小項目評価及び大項目評価についてですが、事前に委員の皆様には法人の自己評価をお示しさせていただいた中では、評価の内容については、特に異論がない、妥当な評価であるというご意見が大半でございまして、先ほどのご意見でも同じようなことだと認識しております。

しかしながら、本市において、1項目、自己評価の評点から引き上げをさせていただき

たいと考えております。具体的には、資料の5ページ目に小項目評価の一覧を記載しておりますが、表の中ほど、大項目－中央市民病院の(5)「第一種感染症指定医療機関としての役割の発揮」、これにつきまして、法人自己評価では「4」となっておりますが、「5」にしたいというふうに考えております。これは、後ほど判断理由の中でご説明させていただきますが、新型コロナウイルス感染症への対応、令和元年度につきましては、年度末での取り組みではございますが、本市における医療提供体制の維持という点では、極めて重要な取り組みでございまして、「特筆すべき成果」に値すると考えられるためでございます。これ以外の小項目及び大項目の評価につきましては、現時点では法人自己評価と同じ評価とさせていただきます。

2ページ目にまいりまして、評価の判断理由でございますが、第3期中期目標期間の初年度である令和元年度においては、中期目標の達成に向け、理事長の強力なリーダーシップのもと、機構職員が一丸となって多岐にわたる効果的な取り組みが行われております。

まず、市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組みについては、中央市民病院では、救急受入体制を高い水準で維持し、「全国救命救急センター評価」において6年連続1位となったほか、がん治療における先進的な医療の提供、総合周産期母子医療センターとしてのハイリスク出産への対応、さらに無料バスの運行などにより、だれもが利用しやすい病院づくりに取り組んでいます。

西市民病院では、脳神経外科の新設などにより、救急受入機能の拡充を図るとともに、区内唯一の小児二次救急輪番体制の維持、認知症疾患医療センターとしての取り組み、そして、地元企業との連携による新生児用被服の導入を初めとした患者サービスの向上に向けて多様な改善策を実施しています。

西神戸医療センターでは、救急課の新設などによる受入体制の強化、小児救急輪番における新たな時間帯での対応を始めとした小児・周産期医療の充実、高精度の放射線治療装置の導入等によるがん治療の推進のほか、さらなる患者の利便性の向上に取り組んでいます。

神戸アイセンター病院では、標準医療から高度専門医療まで病院機能のさらなる強化を図りながら提供するとともに、研究支援体制を強化し、iPS細胞を用いた臨床研究など、次世代医療の開拓に取り組んでいます。

また、日常生活支援を初め、眼科患者に配慮した特色ある取り組みを行っています。

こうした各病院での取り組みに加えまして、新型コロナウイルス感染症への対応として、

中央市民病院は、市内唯一の第一種感染症指定医療機関として、重症患者への対応にあたり、西市民病院及び西神戸医療センターは、軽症・中等症患者を受け入れ、市内の医療提供体制の安定的な確保に極めて重要な役割を果たしています。

次に、業務運営の改善及び効率化に関する取り組みでは、優秀な人材の確保のため、病院職員の能力の高度化・専門化に取り組むとともに、育児短時間勤務制度等の充実によるワークライフバランスの確保や、医師・看護職員等の働き方改革を推進し、また、各病院の医療情報システムについては、最適化の目標年度を設定し、病院間の情報連携体制の強化に取り組んでいます。

そして、財務内容の改善に関する取り組みについては、医療を取り巻く環境が厳しくなる中で、効率的な病床運営や診療機能の強化、地域の医療機関との連携による新規患者の確保など経営改善に取り組んでおり、特に西市民病院では、経常収支が前年度から大きく改善し、神戸アイセンター病院は、2年連続で経常黒字を達成しています。

最後に、今後に向けての課題としまして、令和元年度の法人全体の経常収支は、3年ぶりに赤字となり、今後も要因分析を確実にしながら、経営改善に努めることが重要である一方で、新型コロナウイルス感染症が病院運営に多大な影響を及ぼす中で、各病院は感染症患者に適切に対応することを最優先としつつ、救急医療、高度医療を始めとした幅広い医療を絶え間なく市民に提供していく必要があり、「今後、こうした有事への対応と市民への不断の医療の提供を両立する強固な基盤を築いていくことが求められる」と結んでおります。

以上、本市の評価（案）をご説明させていただきましたが、最終の評価結果につきましては、本日の委員会でのご意見を踏まえまして検討をしまして、確定をしまいたいと存じます。

以上でございます。

●委員長

以上のとおりでございます。これに関しまして、ご意見、ご質問などをお願いしたいと思っております。

●委員

全体としては、神戸市の評価の結果のとおりで結構です。

それで、最初に私が申し上げましたように、中央市民病院の第一種感染症指定医療機関としての役割に関しては、指定されている病床あるいはそれに伴う医療機能以上の活躍を

されている。それから、その支えとなっているのがBCPの改訂、これは表に出ていないと思うんですが、そのBCPの改訂ということもその基盤になっていると思いますので、これは、やっぱり市の案のとおり、「4」を「5」にすべきじゃないかなあというふうに思いました。

以上です。

●委員長

はい、ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

●委員

私も、これ元年度、実質3月だけという評価ですから、「5」で結構だと思っています。それから、神戸アイセンター病院も「5」にすることに異存はありません、経営のところ。

ただ、全体を1個ずつ上げたらどうかという話は、恐らく今年度そういうことをしないといけなような状況に多分なるんだと思いますので、1カ月だけで先にカードを切ってしまうと、今年度、切れなくなるんじゃないかという気がしますので、恐らく今年度そういうことが必要になるんだろう。

それから、最初にちょっとこだわりましたのは、今の時点だと、院内感染を出したということがあるので、それを踏まえて、「5」にするのは僕はちょっといかがかと思うというのが心にあったので、そう言いました。ただ、国で先頭を切って抗体検査をされたり、僕は毎月治験の審査委員で行っていますので、副院長さん方以下皆さんご苦労されているのはわかっていますので、全体ではもちろん「5」でも「6」でも「7」でもいいんですが、ただ、このタイミングで今までのところを全体で「5」にすると、ちょっと違和感が外の人から見たときにあるだろうなと思ったので、最初にどこまでの期間の評価なのかというのを整理させていただいたということでございます。

●委員長

はい、ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

●事務局

済みません。事務局のほうから、申しわけございません。

●委員長

はい、どうぞ。

●事務局

先ほど、一番最初に、課長のほうから説明しましたように、この評価が終わった後に、今年度、2年度の評価のときには、ここに書いてます評価で、今、感染症のことを書いているのは中央市民病院にしかないんです。最初のあいさつのときに申しあげましたように、西市民病院とか、西神戸医療センターも病棟を空けて対応するというようなことがあるので、今後はそういう評価も入れていきたいなあということと、コロナ対応をしている中で、ちょっとこの項目は普通に評価するとナンセンスかなあというような項目もあるので、その辺については、今後、考えていきたいと思っています。

それと、先ほど委員から、3月だけですので院内感染のことは全く関係なくて、「5」ということでおっしゃっていただいているので、そのとおりなんでございますけれども、来年度、2年度の評価をしていただくことを今申し上げるのはあれなんですけれども、本市としましては、中央市民病院は、院内感染を出しましたが、院内感染の発生中においてもコロナの重症患者の受け入れにつきましては、責任を持って確実に受け入れをしまして、コロナ対応におきまして、コロナ対応としての最後の砦というのは見事に役割を果たしているんで、我々としては、院内感染を含めても十分に、来年度の評価を言って申しわけございませんが、「5」であるというふうには思っております。済みません、来年のことを申しあげまして。

●委員

僕が申しあげたのは、今この時点ということなので。もちろん来年度になれば、記憶も薄れ、かついろんなことが総合的に評価できるようになると思います。僕は、抗体検査の第2弾も期待していますので、そういうことを含めて評価するんだろうと思いますけど、このタイミングでそれを含めて「5」というのは、さすがにもたないだろうなあと思って申しあげたということでございます。

●委員長

はい、ありがとうございます。

●委員

感染症のところは、私も「5」の評価にするというので、いいと思います。

先ほどちょっと先走りしましたがけれども、神戸アイセンター病院のところも評価を上げてもいいと思っています。

全体としての話になると、全部上げるかということについては、やはり法人としての最初、損益を見ると赤字になっているということを考えると、全体を上げると、赤字になっているということについての一定結果的なことを考えると、そこは今の評価でいいのではないかというのが個人的な意見です。

それと関連して、コロナの問題には触れませんでしたけれども、やはり中央市民病院も92.6%の病床利用率で計画がされている。そう考えると、こういった突発的なことが起こったときに、どの程度のキャパシティで経営が回る仕組みを構築するのかというのを改めて考え直す必要があるかなあというふうに個人的には思っています。ただ、そのコストを病院だけで下げても利益が出るようにするのか、そこはやはりキャパシティを確保しておくということは、一定市民全体で負担をしなければいけないのかということは改めて議論をする必要があるなあというふうに感じました。これは来年以降の話であります。

以上です。

●委員長

はい、どうもありがとうございました。

●委員

先ほどの評価を上げる点につきましても、中央市民病院の感染症に対しての役割というのは、「5」に上げて問題ないと思いますし、私も最初に申しあげましたように、期末に1カ月大変な苦勞されたということで、プラスアルファの評価ということで、これにつながると思います。

それから、アイセンター病院につきましても、「5」に上げていただいて全く異存はございません。

それから、先ほど事務局が言われましたように、これからほかの病院における感染症の役割という評価をつけていただく項目をつけていただくということには大賛成でございますので、市民病院群は一致団結してコロナに対応していただきたいというふうに考えております。

以上です。

●委員長

はい、どうもありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

●委員

資料4の最後の「今後に向けての課題」というところで、「3年ぶりに赤字となった」とか、いろいろ表現があります。やっぱりコロナの影響が働き方とかにかかわってくると書いてあるんですけど、今年、どこの病院でもコロナの傷というか、大きく収支上赤字の穴があいていると思います。これは、今後経営努力しても、4病院に限らず、この穴は普通のやり方では埋まらないと思います。例えば、私どもの大学で、このままいけば年間100億円の赤字になるんですね。最初に院内感染を出した永寿総合病院、そこにも私はかかわっていますが、あそこが今33億円の赤字です。患者が戻ってこないということが指摘されているんですが、今年度はこれでいいかわかりませんが、来年度以降のことを考えれば、神戸市が何らかの財政支援を、神戸市に限らず、公的な機関が財政支援するとか、そういう形でやらないと埋まらないと思うんですが、その一方で、例えば、議会でこれから審議されるとしたら、これからのことになりすね。この表現とタイムラグがあるように感じるわけです。

それで、できれば、昨年度の令和元年度は3月までしかかかってませんが、何らかのコロナの影響で大きな赤字が生じた、財政的に埋まりにくいというふうな何か表現みたいなものを入れておいたほうが私はいいいんじゃないかなあというふうに思いました。

以上です。

●委員長

はい、ありがとうございます。

●事務局

先生のおっしゃるとおりでして、既に先月の議会のときでも、市内の病院で非常に赤字が出ている、特にコロナの患者を受け入れた病院で赤字が出ているということ、その中で、市民病院につきましては、4月と5月だけで数十億円の収支減が出ているということをご説明する中で、神戸市からの補助金、「運営費負担金」と言ってますけれども、それで補てんをするようにというお話を受けています。

その中で、神戸市としましては、このコロナによる影響につきましては、責任を持って対応させていただきますということのご答弁を申し上げますので、その点も踏まえまして、先生がおっしゃいましたように、ちょっと工夫して、その影響についてちゃんと配慮していくというふうな記述にさせていただきたいと思います。

●委員

はい、ありがとうございました。

●委員長

はい、どうもありがとうございます。

ほかによろしいですか。

●委員

感染症のことが華々しく世の中で伝わっておりますが、こういうときこそ、機構と申しますか、病院そのものはもう一度ファンダメンタルを強固にしていく機会じゃないかというふうに思っています。そういう意味では、多くの特に医療従事者の努力によってコロナを乗り切っていくわけでありますが、いつまでもそればかりでは続かない。そういうふうになってくると、やはりこの機会にそのデータをきちんと収集できる仕掛けづくり、また分析をきちんとして、他とのベンチマーキングをしながら、経営の方針、それから診療の方針等々を支援する組織づくり、データづくり、これにこそ次へのステップがあるんだと思うんですね。そういうところが早く「4」やら「5」になっていくように。コロナの対応等で「5」といったら、それはそんなに難しいことじゃありません。しかし、経営分析やP D C Aを回す仕掛けづくりというのは、そう簡単に一挙に「5」にはならないわけで、少しずつそれを上げていく努力をしていただきたいというのを最後に一言追加しておきたいと思います。

以上です。

●委員長

はい。どうもありがとうございました。

それでは、これでご質問、ご意見を打ち切りにしたいというふうに思います。どうもありがとうございました。

本日の各委員の意見を踏まえまして、神戸市としての最終的な評価を行っていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。

以上で、本日の議題は終了といたします。

各委員の皆さんにおかれましては、各方面からのご意見をありがとうございました。

それでは、最後に、事務局のほうから何かあったら、お願ひいたします。

●事務局

本日は、貴重なご意見を多数いただきまして、まことにありがとうございました。

「令和元年度の業務実績評価」の結果につきましては、地方独立行政法人法に基づき、9月の市議会のほうに報告をさせていただく予定にしております。

委員の皆様におかれましては、引き続き本市の医療行政並びに神戸市民病院機構の運営にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、ありがとうございました。

3. 閉 会

●委員長

それでは、これで第44回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。